

インターバンクの声（2015年5月19日）

週初のニューヨーク市場は、元々予定にあった材料としては5月の米 NAHB 住宅市場指数の発表くらいで、アジア市場と似たような小動きの相場展開になるのではとの予想も多かった。しかし、そこはさすがにロンドン勢も退社前で、ニューヨーク勢とともに2大金融市場のプロ達が重って動く時間帯とあっては、簡単にはアジアと同じような静かな相場に収まらない。その唯一予定に入っていた米 NAHB 住宅市場指数は予想を下回る結果だったが、見通し指数が堅調で、債券市場が午前中から売りが先行したことによって利回りが上昇したこともあって、ドル買いが進む展開となった。ドル円が120円を超えたのはニューヨーク市場の終盤だったが、ユーロはロンドンの朝に一旦戻っていた1.14ドル台から直ぐに1.13ドル台に売り込まれ、終盤には1.13ドルを僅かに割り込む場面もあった。先行きのドルについてはまだ強いとの見方も少なくはないが、米国の利上げ時期が後ずれするとの見方が広がっているのも事実だ。天候が穏やかになってからの数字になる4月の住宅着工件数や建設許可件数の発表が今晚のニューヨーク時間にあるが、やはり米連邦公開市場委員会（FOMC）メンバー達の見方が垣間見えることになる日本時間の木曜日未明の前回 FOMC 議事要旨の発表が目先の鍵になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。